御家流香炉灰箸目（全）

（おいえりゅうこうろはいはしめ）

伊与田宗茂勝由傳　細谷助左衛門授　写本　一冊

東北大学附属図書館狩野文庫所蔵

【凡例】

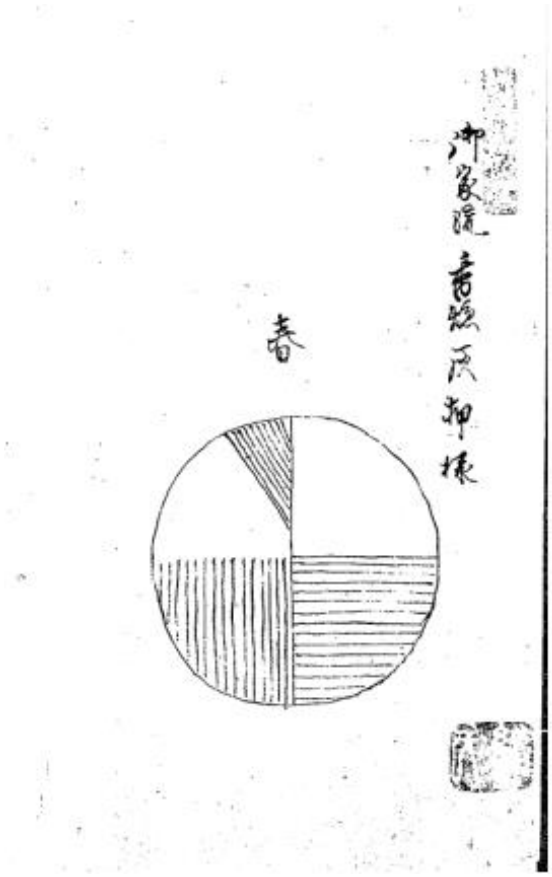
① 句読点、「」、送り仮名等は適宜追記しました。

② 旧仮名使いを新仮名使いに適宜改めました。

③ 黒字の（）は、本文内に小文字で記された注記です。

④ 青字の（）は、筆者の補足です。

⑤ 赤字は、判読等に曖昧な点がある部分です。

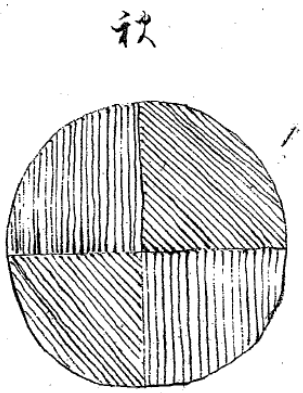


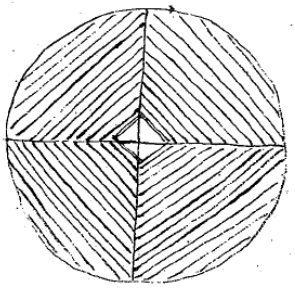
御家流香炉灰押様（以下、灰箸目の図）

春

［図］

細谷氏印



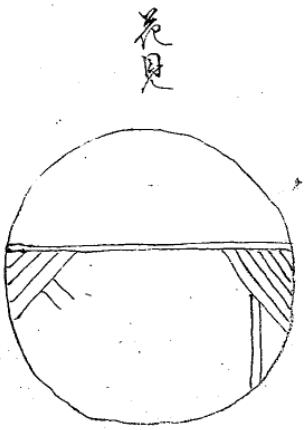


秋

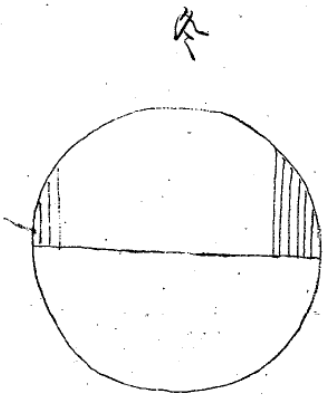
〔図〕

夏

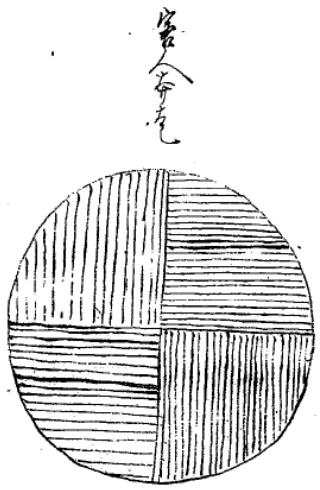
〔図〕



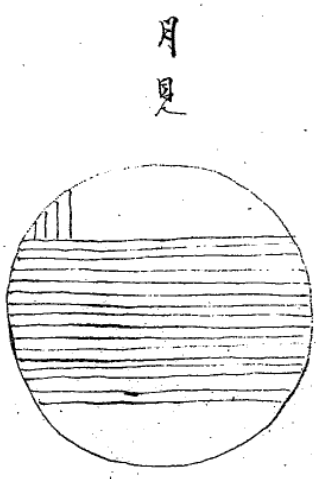
花見（一）　［図］



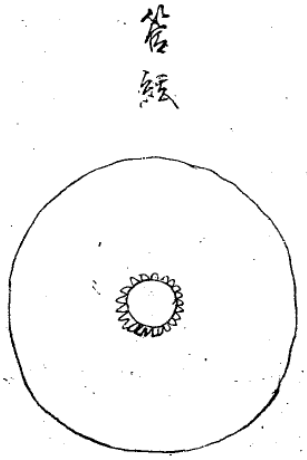
冬　［図］



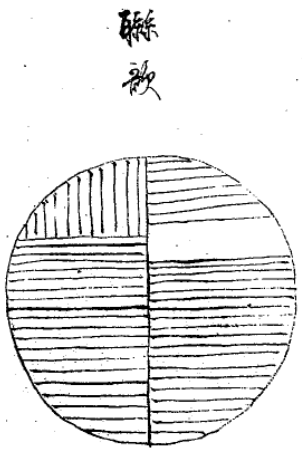
客人奔走　［図］



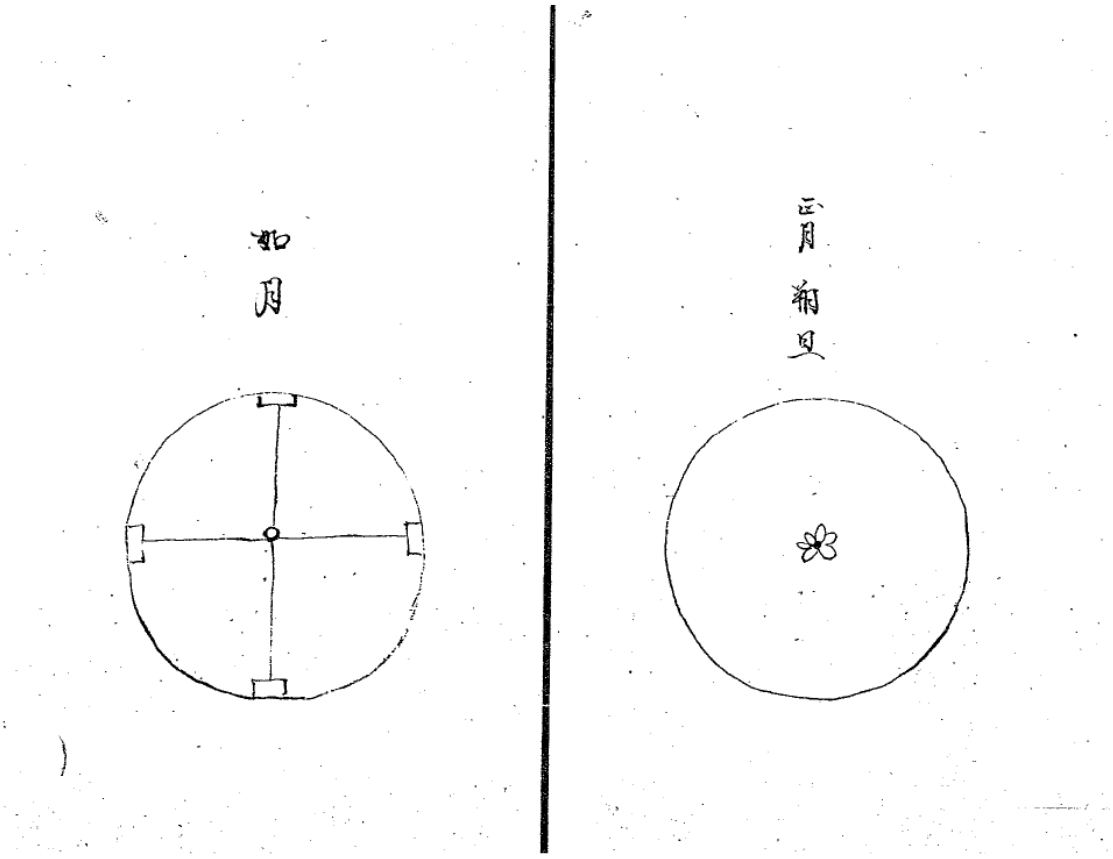
月見　［図］



管絃　［図］

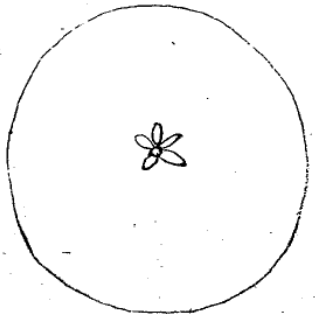


聯(連)歌　［図］

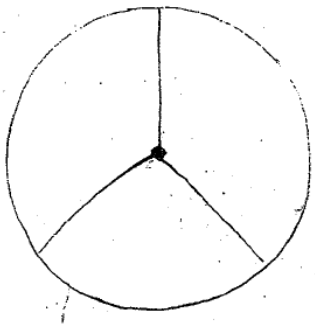


如月 ［図］

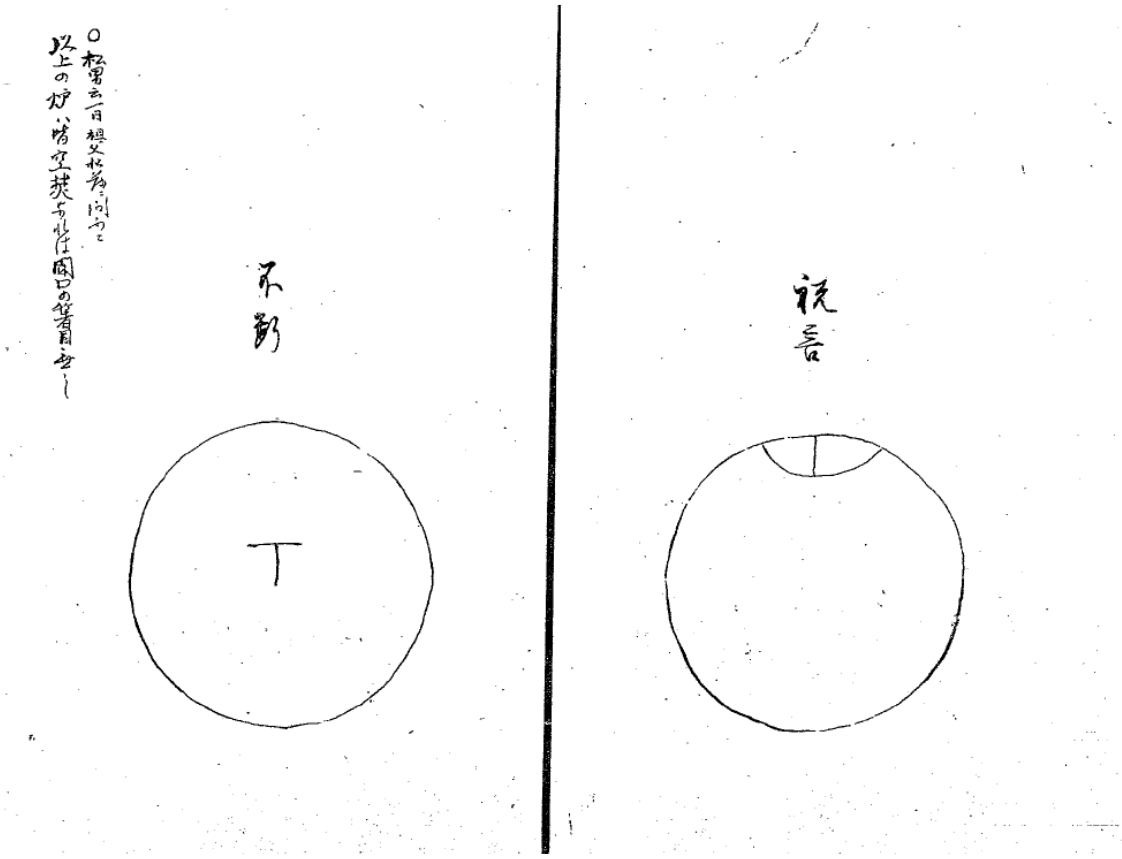
正月 朔旦 ［図］



花見（二）　［図］



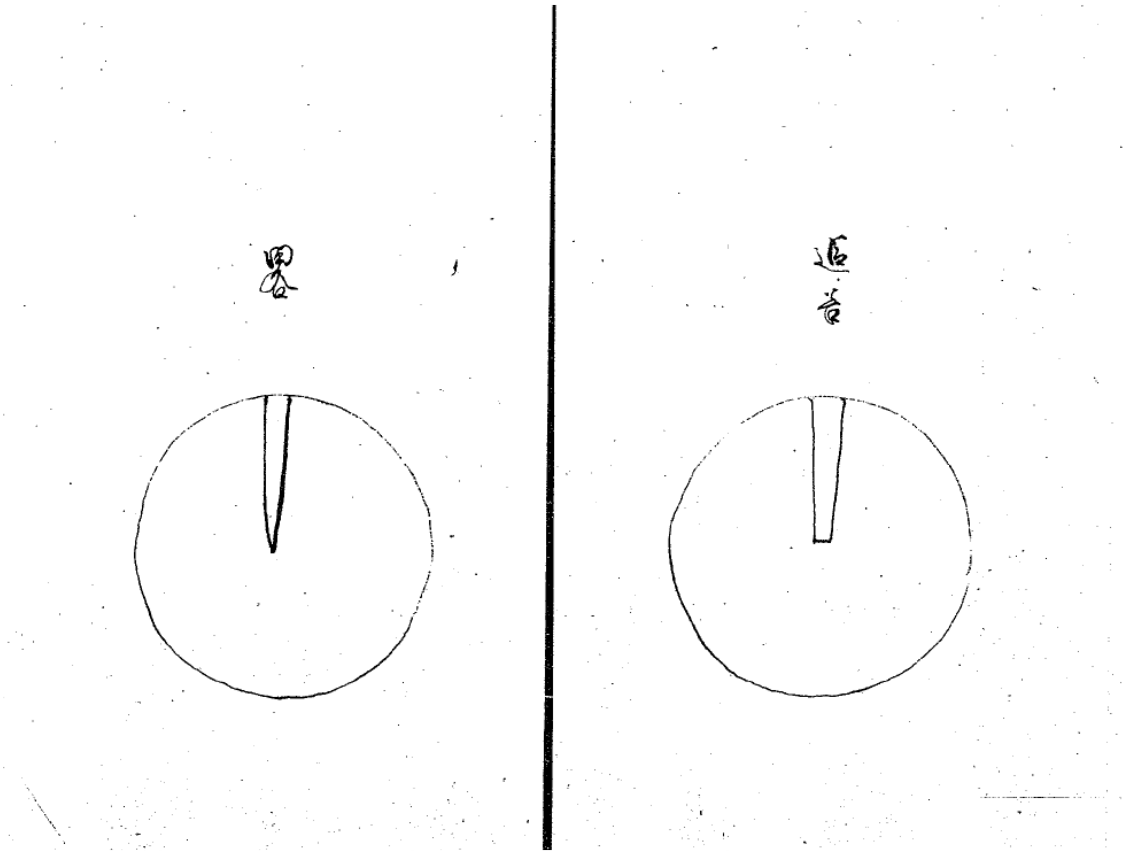
屋移　［図］



祝言　［図］

不断　［図］

【欄外注書】
松男云わく、一日祖父松茂に問うに
以上の炉は皆空焚なれば、聞き口の箸目無し。

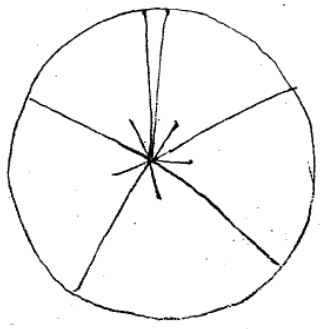


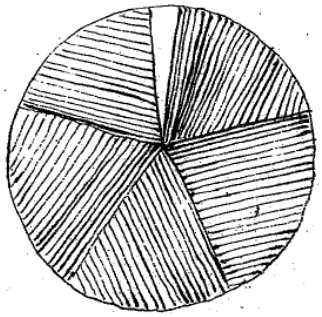
畧（（略）

［図］

追善

［図］



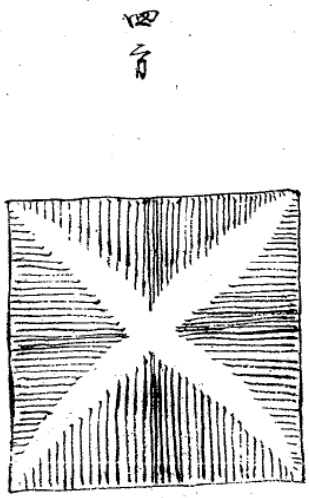


行

〔図〕

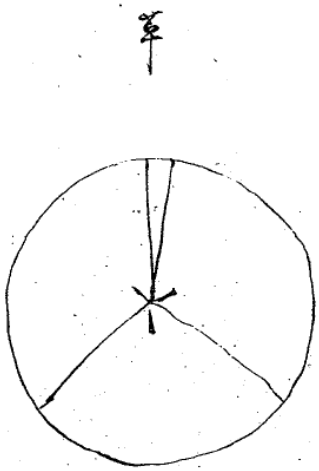
真

〔図〕



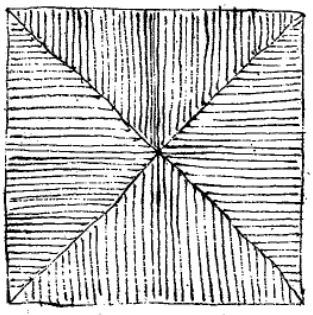
四方

［図］

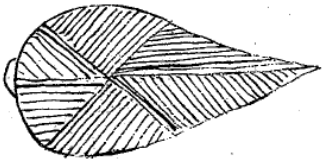


草

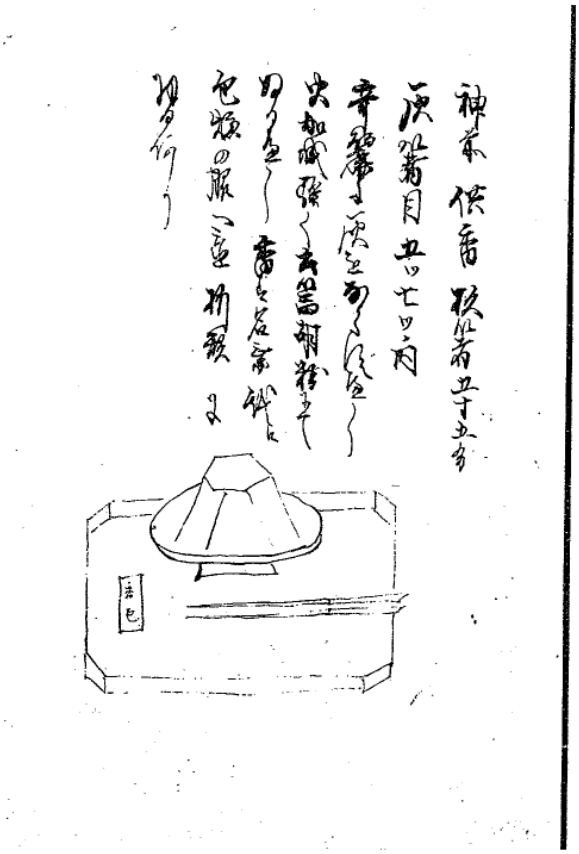
［図］



四角　［図］



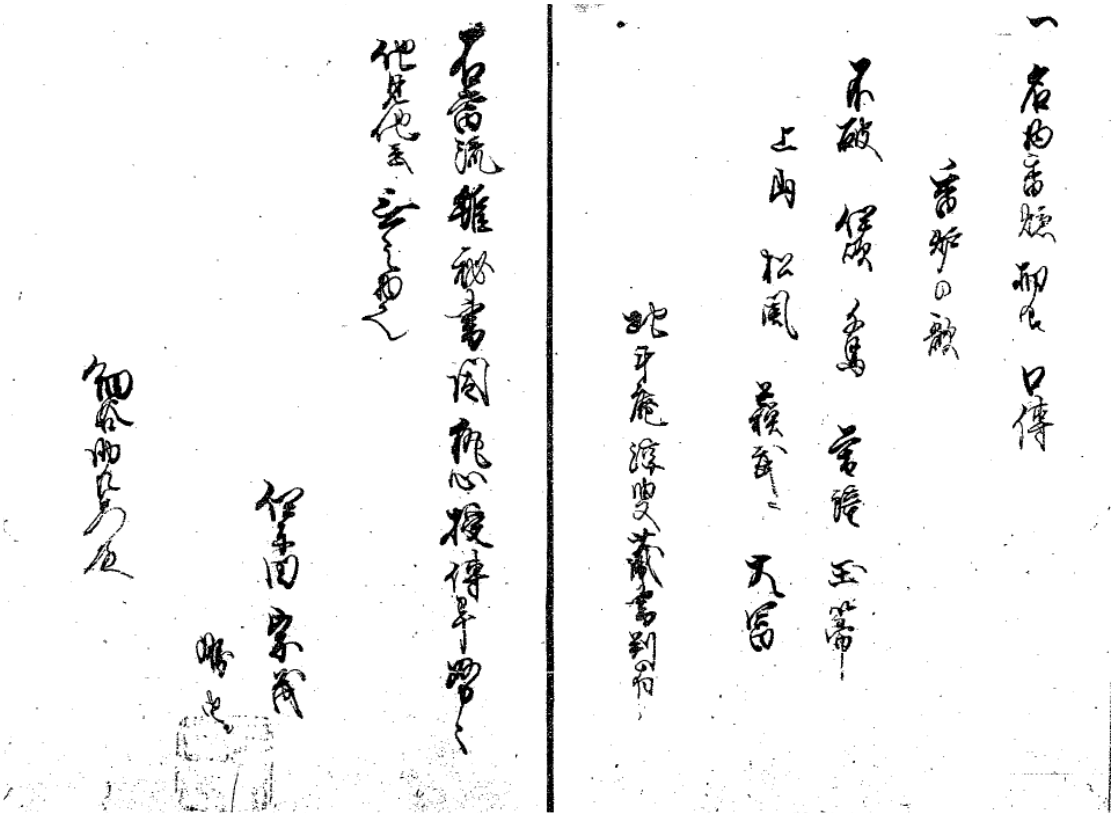
鴨鳫（雁）　［図］



獅子　［図］

足より押し初める。

神前、供香、枚（杉）箸五寸五分
灰箸目五つ、七つに因り
奇麗に灰をならすべし。
火加減強く出す。器胡粉にて
ぬるべし。香は名乗紙へ
包み、炉の脇へ置く。折形に
習いあり。
［図］



一　名物香炉押し様、口伝。

香炉の歌

不破（ふわ）　伊吹（いぶき）

千鳥（ちどり）　暮鐘（くれがね）　玉箒（たまぼうき）

上山（うえやま）　松風（まつかぜ）

蘇武（そぶ）に　大富（おおとみ）

北斗庵淳叟蔵書判有り。

右当流秘事と雖も執心に因り、授伝畢（おわんぬ）。努々（ゆめゆめ）

他見、他云、これ無き物なり。

伊与田宗茂

勝由　押印

細谷助左衛門殿

令和三年四月

『香筵雅遊』國井和裕